

鶴ヶ島市弓道連盟

キャン、パーン!! 弓から放たれた矢が弦音を残して吸い込まれるように飛んで行きの射を射抜く。和気あいあいとした中にも緊張感が漂い、射手の目は真剣だ。今日は月一回の月例会。会員同士が的中数を競う日だ。

私たち鶴ヶ島市弓道連盟の創立は40数年前、第一小学校近くの弓道場に始まり、長久保小学校近くの弓道場、そして現在は藤中学校の校庭の奥の小さなプレハブ小屋。横には小川が流れ、春は桜、秋には紅葉、お天気の良い日には遠くに富士山を望むことができる自然豊かな環境だ。矢道にはキジやコジュケイが姿を見せることも。時には、ワオー!!タヌキも。

現在の会員は下は20代から上は80才を超える老若男女40有余名で、それぞれ技の向上を目指して日々稽古に励んでいる。お蔭さまで競技会では上位入賞者を多数輩出。審査会においても昇段者、昇格者が続々だ。立派とは言えない道場でもこのような好成績について、「ぼろは着てても心は錦」とは創設者の一人で今年亡くなられた教士七段の玉之内淳先生のお言葉だ。

毎年初夏には初心者のための弓道教室、秋には当連盟の会員だけではなく以前やっていた経験者のための講習会を開き、弓道を知ってもらい、会員数を増やすための活動を行っている。また近隣の連盟を集めての競技会を開催し、競うだけではなく他連盟との親睦を図る活動も行っている。

弓道は、一人ひとりの体力に合わせて弓の強さを選ぶことができ、老若男女同じ土俵で競うことができる数少ない武道であり、生涯を通して親しむことができるスポーツでもある。思いもそれぞれ。健康のために通う者、的中を楽しむ者、競技会、審査会で上を目指す者。それぞれの思いをお互いに認めつつ、たくさんの人たちに弓に親しんでもらえるようこれからも努力工夫をし、連盟の着実な運営をめざして行きたい。



写真は10月に開かれた近隣市町親善射会における“矢渡し”という射礼の場面。
射手は当連盟会長 錬士六段 境竹生。

2018年11月5日
鶴ヶ島市弓道連盟
担当 和田・山下・田中